

# 国の肝煎り研究 迷走

インベーションを目指し国が鳴り物入りで始めた大型の研究開発プロジェクトが迷走している。代表例といえる内閣府の「革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）」に対する批判は特に強い。日本はかつて宇宙や原子力などで欧米に追い付こうとトップダウンで大型事業に取り組んだが、以前通用した政策がうまく機能しない。人材の不足や制度の不備などがあらわになってきた。



チョコの実験は裏付けが不十分と指摘された（改善策を説明した研究リーダーの山川氏、3月）

## チョコ実験や量子コンピューターで疑念

## 人材足りず 革新性に課題

《ImPACTの概要》	
▽期間	2014～18年度
▽プロジェクト数	16件
▽1件あたり●予算額 (16年9月現在)	16億～48.5億円

性がある」という、裏付けが不十分な結果の発表。もう一つは次世代の高性能計算機を「量子コンピューター」と呼んだところ「量子ではない」と研究者から異論が噴出したことだ。

**宣伝が先走る**  
チョコの発表は研究の「ずさんさが問題となり、外部の専門家を集めて経緯を検証した。量子コン

0億円を投じる。これまでの事業と比べても巨額だ。また事業の最大の特色はチーム編成や課題の選定を公募で選んだプログラム・マネージャー（PM）に一任した点だ。しかしここに落とし穴があった。研究ができてはもと日本に少ない。審査にかかった研究者は「望ましい応募者がいなかった」と、選出に苦労した経験を明かす。

東京理科大学の小林宏教授は「ImPACTのように巨費を投じるよ、利用者の意見を聞きながら開発した方がずっ」と断言する。山海教授とは違う方式の装着型ロボットをつくり、ベンチャー企業のイノフイスを設立。これまでに約3300台を販売した。

国はロボット開発事業を繰り返してきた。阪神大震災での救援・救助や福島第1原発事故の收拾

「ImPACTは総合科学技術・イノベーション会議が司令塔となり14年度に始まった。2013年度の補正予算で内閣府に認められた550億円を基金に創設した研究開発制

「ImPACTは総合科学技術・イノベーション会議が司令塔となり14年度に始まった。2013年度の補正予算で内閣府に認められた550億円を基金に創設した研究開発制

「ImPACTは総合科学技術・イノベーション会議が司令塔となり14年度に始まった。2013年度の補正予算で内閣府に認められた550億円を基金に創設した研究開発制

「ImPACTは総合科学技術・イノベーション会議が司令塔となり14年度に始まった。2013年度の補正予算で内閣府に認められた550億円を基金に創設した研究開発制



角南篤副学長は「PMの下で野心的な研究に挑む米国防高等研究計画局（DARPA）のような制度が日本に必要だ」と訴える。形をまねるだけでなく、機能する制度をしっかりと設計しなければいけない。（永田好生、遠藤智之）